

SIDR 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

週報 平成 28 年(2016 年)第 26 週 (6 月 27 日~7 月 3 日)

発行年月日:平成 28 年(2016 年)7 月 8 日
 発行:滋賀県感染症情報センター
 滋賀県衛生科学センター 健康科学情報係
 電話:077-537-7438 FAX:077-537-5548
 e-mail:eh4505@pref.shiga.lg.jp

- 1) 小児科定点医療機関からの報告数が多かった感染症は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナおよび A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 2) 感染性胃腸炎は、全県で減少するも、大津市、東近江および長浜保健所管内で増加
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して高い値
 - ・ 大津市、東近江および長浜保健所管内では他保健所管内よりも多く報告
- 3) ヘルパンギーナは、全県で増加、彦根以外の保健所管内で増
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して「最も」高い値
 - ・ 長浜および高島保健所管内では警報開始基準値を超過
 - ・ 大津市保健所管内では他保健所管内よりも多く報告
- 4) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、全県で減少するも、全県では過去 5 年の同時期と比較して高い値
 - ・ 高島保健所管内では警報開始基準値を超過
 - ・ 大津市保健所管内では他保健所管内よりも多く報告
- 5) 滋賀県内で感染したと推定される重症熱性血小板減少症候群の患者(6 月中旬に発症)を初めて確認(滋賀県外で診断されたため、本週報の値には反映されません)

1. 全数報告の感染症

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一〜四類および五類感染症の全数報告対象の感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に報告することになっています。これらの報告のあった症例を診断された週毎に集計しています。

診断週	類型	報告数	詳細情報
第 26 週診断例	一類感染症	報告なし	
	二類感染症	結核 6例	肺結核(60歳代男性、80歳代男性)、肺結核および気管支結核(60歳代男性)、疑似症患者(80歳代女性)、無症状病原体保有者(70歳代女性)
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 1例	O157VT1VT2(50歳代女性)
	四類感染症	ツツガムシ病 1例	40歳代男性、推定感染地域:岐阜県
		レジオネラ症 1例	肺炎型(60歳代男性)、推定感染地域:滋賀県
	五類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 1例 侵襲性肺炎球菌感染症 1例	Enterobacter cloacae(70歳代女性) 70歳代男性、ワクチン接種歴なし
第 25 週以前の診断例(*)	二類感染症	報告なし	

(*)平成27年 第 1 週以降に診断され平成28年第 26 週に報告された症例

2. 全数報告の感染症の累計報告数と保健所管内別報告数

平成 28 年第 1 週以降に診断された疾患を集計して累計報告数を滋賀県と全国について下の表に示しています。また、本週報の当該週に報告された症例数を保健所管内別に示しています。なお、期日以降に報告があった場合は、再集計し掲載しています。

分類	疾患	滋賀県									平成28年累計		平成27年累計**	
		25週	26週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県	全国	滋賀県	全国
二類	結核	7	6	3	1	0	1	0	0	1	122	11,679	221	23,880
三類	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	65	1	156
	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	1	0	0	0	0	0	0	5	797	43	3,561
四類	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	215	2	212
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	176	4	242
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	5
	重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	60
	つつが虫病	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	80	0	419
	デング熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	161	1	292
	レジオネラ症	1	1	1	0	0	0	0	0	0	14	606	29	1,587
	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	588	8	1,095
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	125	2	251
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	1	0	0	0	1	0	0	0	5	682	13	1,654
五類	急性脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	460	3	497
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	87	3	185
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	262	16	431
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	695	10	1,413
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	27	0	80
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	173	3	247
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	1	1	0	0	0	0	0	0	21	1,579	34	2,355
	水痘(入院例)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	159	2	307
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	2	12
	梅毒	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10	2,019	14	2,660
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	62	2	117
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	60	3	120
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	4	162
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	35

※ :平成28年1月現在の暫定数

3. 定点把握の対象となる五類感染症の発生状況

感染症法で定められている五類感染症のうち、滋賀県が指定した定点医療機関(指定報告機関)から報告される感染症を定点把握対象感染症と呼びます。

警報発生 ; A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎(開始基準値;8、終息基準値;4)
ヘルパンギーナ(開始基準値;6、終息基準値;2)

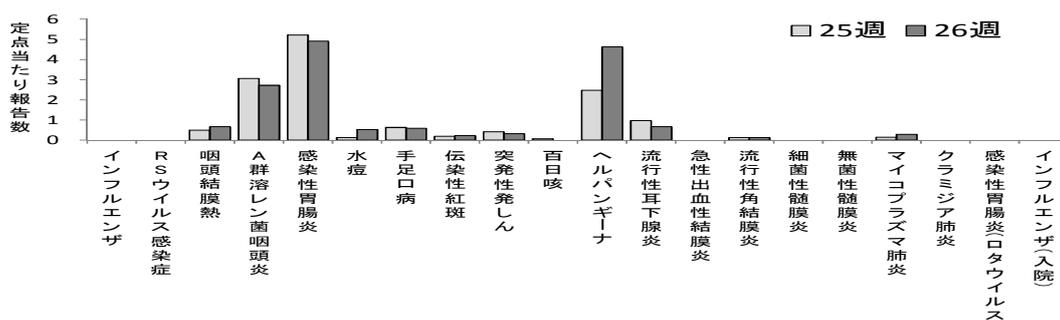
高島保健所管内
長浜保健所管内
高島保健所管内

注意報発生 ;なし

定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の30%を超えた場合に滋賀県全域に警報が発令されます。

- 小児科定点医療機関からの報告数が多かった感染症は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナおよびA群溶血性レンサ球菌咽頭炎です。
- 感染性胃腸炎は、全県で減少するも、大津市、東近江および長浜保健所管内で増加しました。
 - 全県では過去5年の同時期と比較して高い値を示しています。
 - 大津市、東近江および長浜保健所管内では他保健所管内よりも多く報告されています。
- ヘルパンギーナは、全県で増加、彦根以外の保健所管内で増加しました。
 - 全県では過去5年の同時期と比較して「最も」高い値を示しています。
 - 長浜および高島保健所管内では警報開始基準値を超過しています。
 - 大津市保健所管内では他保健所管内よりも多く報告されています。
 - 1歳(34%)で最も多く、1-3歳で全体の85%が報告されています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、全県で減少するも、全県では過去5年の同時期と比較して高い値を示しています。
 - 高島保健所管内では警報開始基準値を超過しています。
 - 大津市保健所管内では他保健所管内よりも多く報告されています。
 - 5歳(20%)で最も多く、3-6歳で全体の64%が報告されています。

定点把握の対象となる五類感染症の定点当たり報告数



4. 定点把握の対象となる五類感染症の保健所管内別の定点当たり報告数

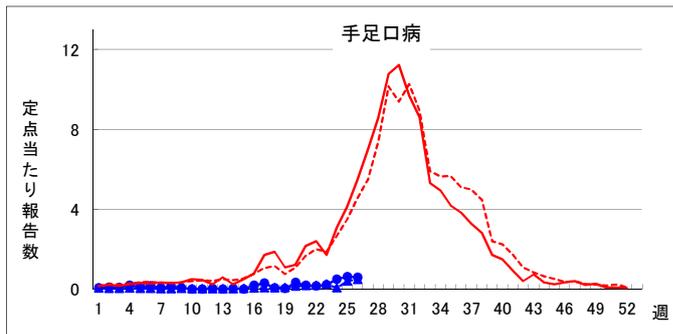
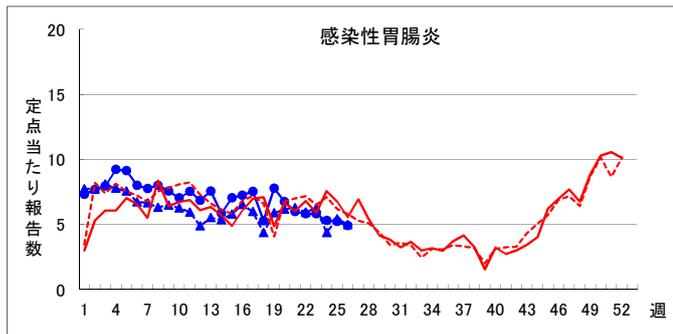
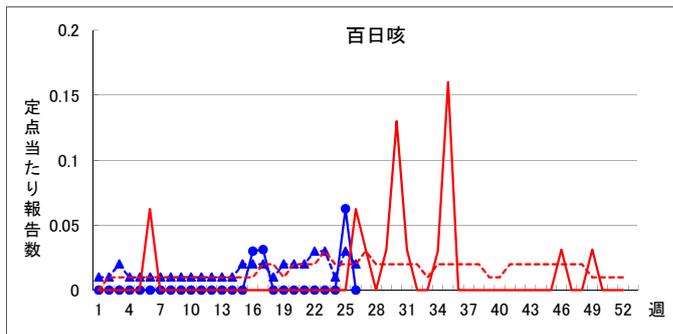
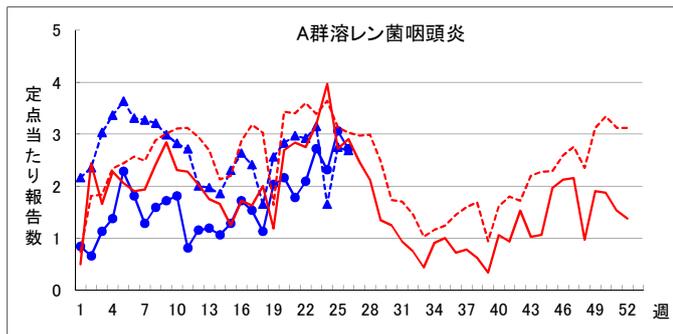
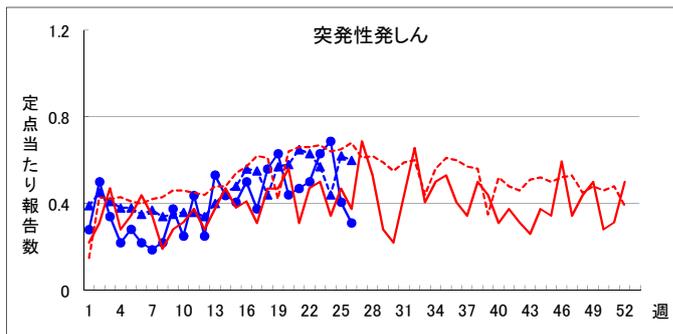
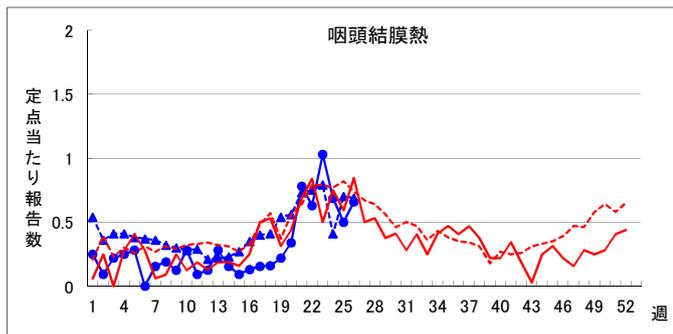
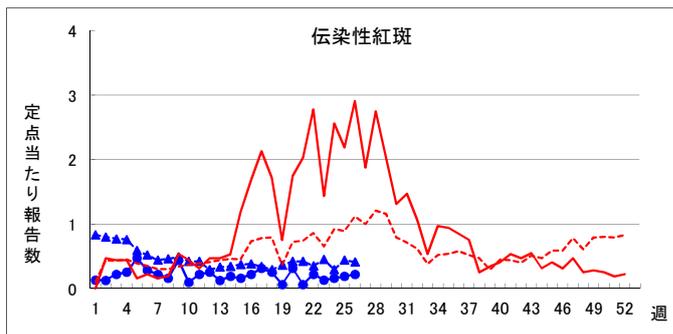
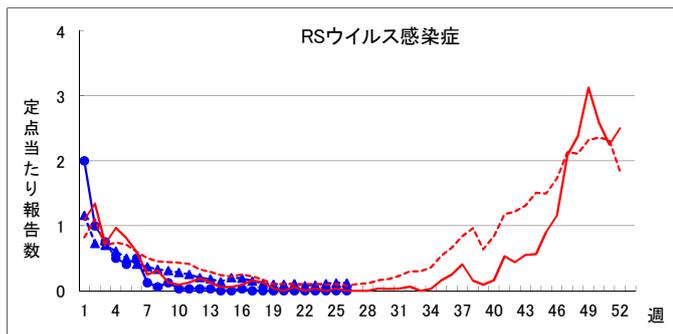
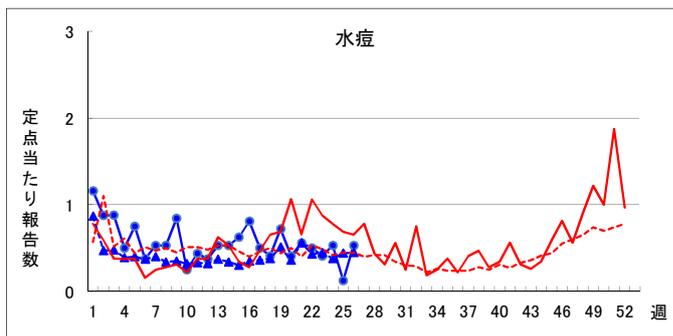
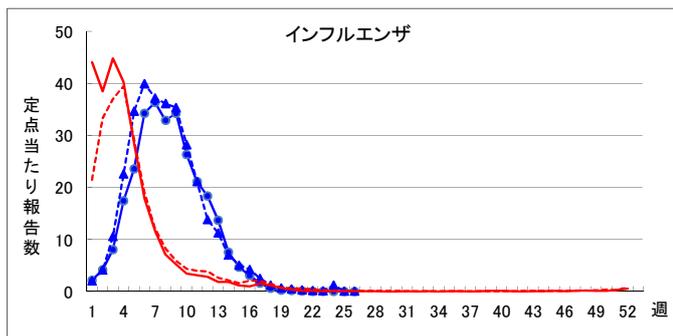
週単位(月曜日から日曜日)で報告される定点把握対象感染症の、滋賀県および管轄保健所別定点当たり報告数を下の表に示しています(定点当たり報告数=報告数/定点医療機関数)。

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県		保健所別(26週)						
		25週	26週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ (53)	インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科 (32)	RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱(プール熱)	0.50	0.66	0.43	2.00	0	0.40	0.75	0	0.50
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.06	2.72	3.43	2.00	1.00	2.20	0.50	1.00	15.00
	感染性胃腸炎	5.22	4.91	5.57	1.00	2.50	7.00	3.25	12.75	1.50
	水痘	0.13	0.53	0.29	0.33	0.25	0.80	0.75	0.25	2.00
	手足口病	0.63	0.59	0.71	0.17	0	0.40	0.25	0.75	3.50
	伝染性紅斑(リンゴ病)	0.19	0.22	0	0	0	0	0.50	1.25	0
	突発性発しん	0.41	0.31	0.57	0.17	0.50	0	0	0.75	0
	百日咳	0.06	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ	2.47	4.63	5.71	2.17	2.00	4.60	0	12.25	7.50
眼科 (8)	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.97	0.66	0.71	0.83	0.25	0.40	1.00	1.00	0
	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基幹 (7)	流行性角結膜炎	0.13	0.13	0	0	0	0	1.00	0	0
	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	0.14	0.29	0	0	1.00	0	1.00	0	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
インフルエンザ(入院に限る)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

赤字: 警報レベルの基準値(開始基準値または終息基準値)を超過
紫字: 注意報レベルの基準値を超過

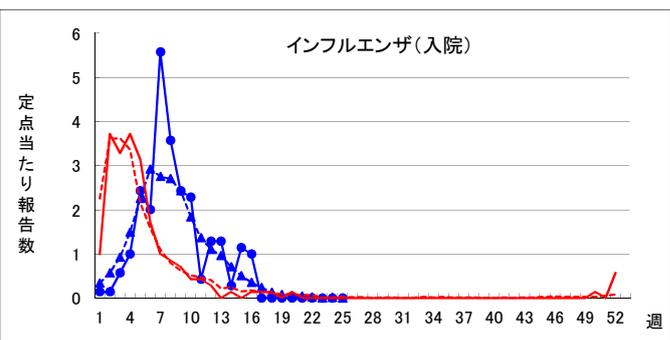
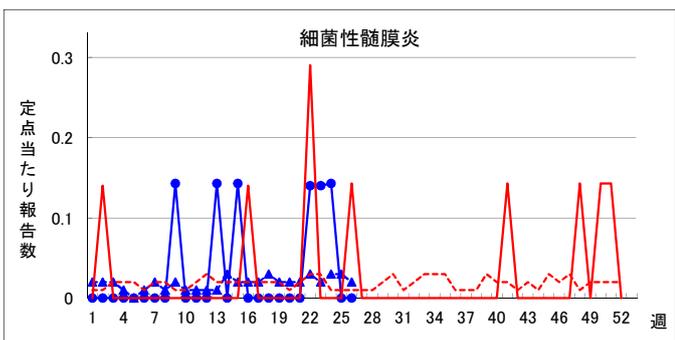
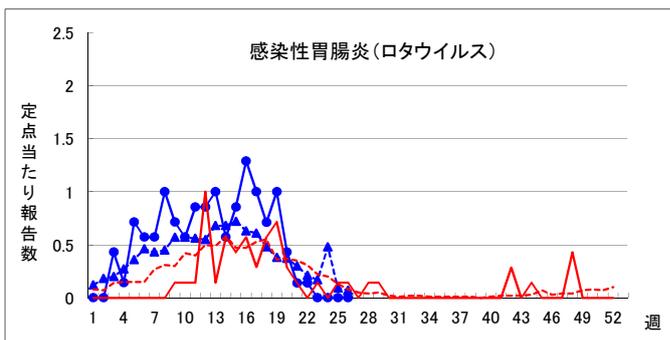
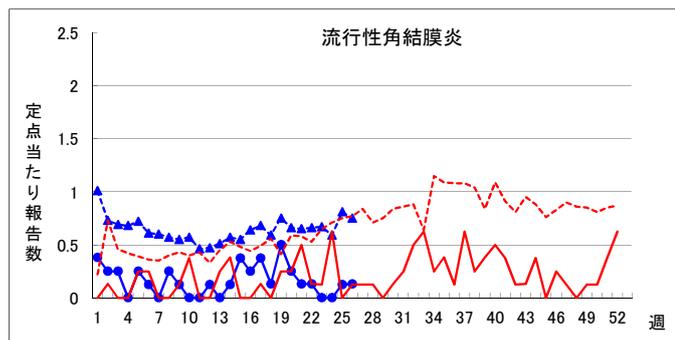
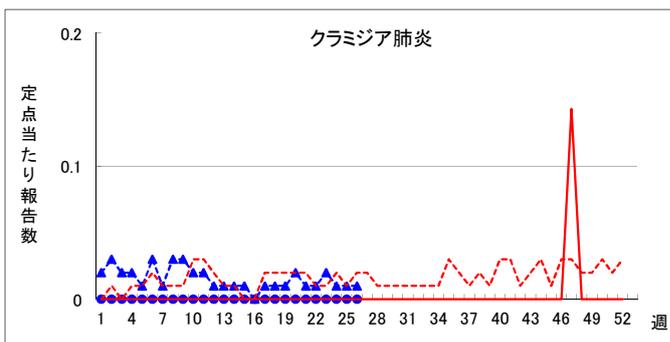
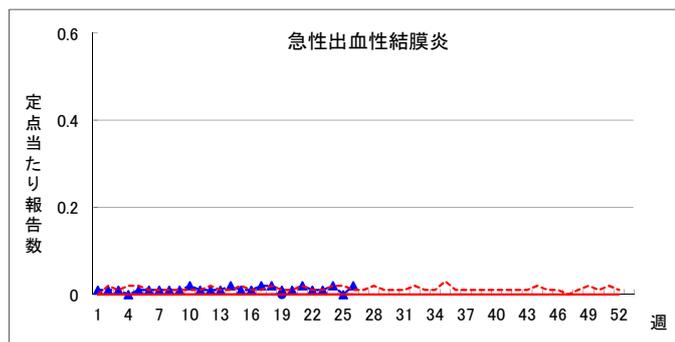
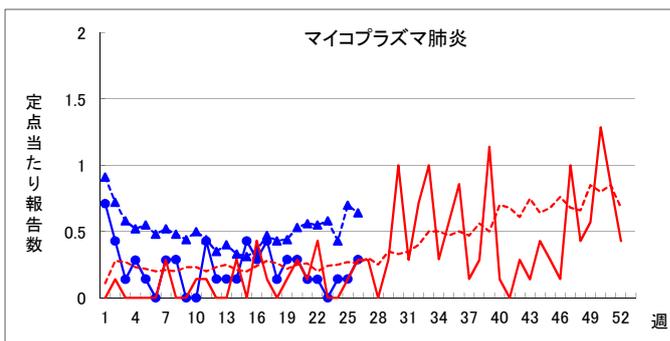
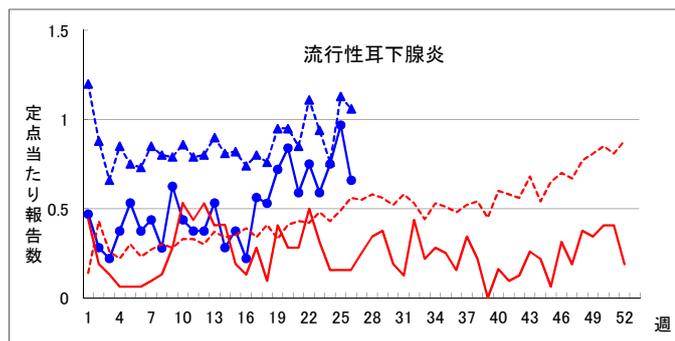
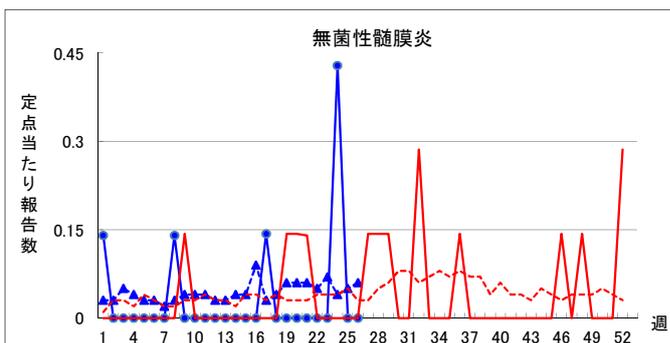
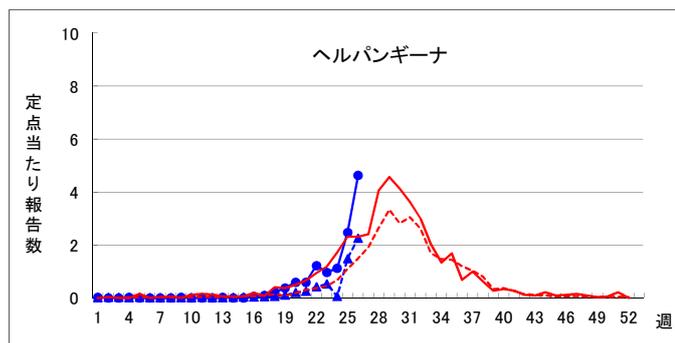
5-1. 疾病別定点当たり報告数 平成28年第26週

- - - 平成27年全国 — 平成27年滋賀県
-▲- 平成28年全国 ●— 平成28年滋賀県



5-2. 疾病別定点当たり報告数 平成28年第26週

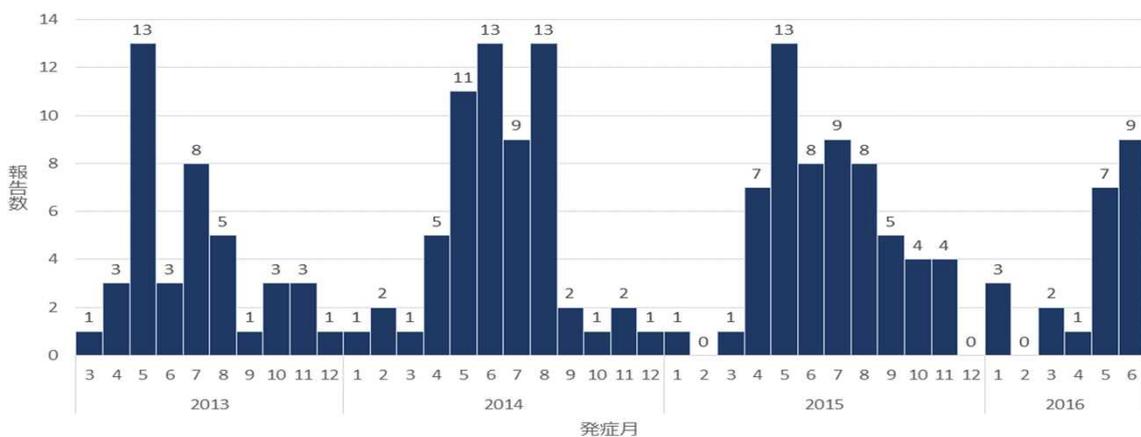
- - - 平成27年全国 平成27年滋賀県
 -▲- 平成28年全国 平成28年滋賀県



滋賀県で初めて 重症熱性血小板減少症候群の患者が確認されました



1. 滋賀県内で感染したと推定される重症熱性血小板減少症候群の患者(6月中旬に発症)が、初めて確認されました。
2. 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、平成25年に国内で初めて患者が発見された新しい感染症です。
3. ヒトはウイルスを保有するマダニに刺されることによって感染します。
4. マダニの活動が活発化する5～8月にかけて患者が増加します。



全国のSFTS診断週別報告数(平成25(2013)年3月4日以降平成28(2016)年6月29日現在、n=195)

どんな病気？

1. マダニに咬まれた後、6日～2週間後に発症します。
2. 主な症状は発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)などです。
3. 5～8月に患者が増加します。
4. 多くの患者の年齢は60-80歳代です。
5. ワクチンおよび治療のための薬剤はありません。
6. 重症化や死亡することがあります。

マダニの生息場所

1. シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する森林
2. 草むら、畑、あぜ道など



対策方法

1. マダニに咬まれないことが重要です。
2. マダニが生息するような野外では、長袖、長ズボン、手袋および足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を控えてください。
3. 屋外活動後はシャワーや入浴で体を洗い流してください。
4. マダニに咬まれた場合は、無理に引き抜こうとせず、医療機関(皮膚科)を受診してください。
5. マダニに咬まれた跡がある場合は、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状を認めた場合は医療機関の受診が勧められます。